

日本：貿易統計（2015年11月）

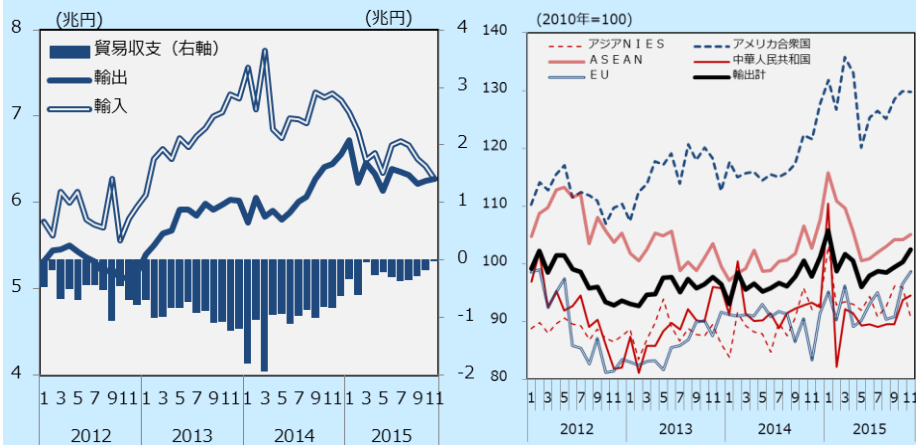
—輸出は持ち直しの動きが鮮明に—

MRI Daily Economic Points

December 17, 2015

貿易収支

地域別実質輸出金額



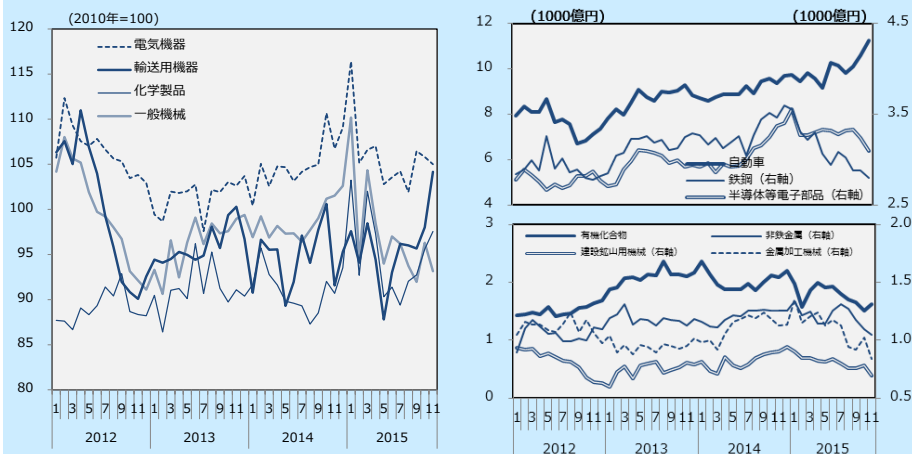
資料：財務省「貿易統計」。いずれも季節調整値。実質輸出金額は三菱総合研究所による推計値。

評価ポイント

2015年11月の結果

- 2015年11月の貿易統計(名目)は、輸出金額が季調済前月比+0.5%(前年同月比▲3.3%)、輸入金額は同▲2.2%(同▲10.2%)となった。貿易収支は、季節調整値で▲33億円と前月(▲1,730億円)から赤字幅が大幅に縮小した。
- 実質輸出は基調済前月比+2.1%※となった。実質輸出を地域別にみると、米国向けが▲0.1%※と微減となったものの、中国向けは同+0.8%※、ASEAN向けは同+1.0%※と増加。
※三菱総合研究所による季節調整値。
- 米国向けは、輸送用機器が好調で、緩やかな回復基調にある。国内大手自動車メーカーが従来メキシコ工場で生産していた車種の一部を国内生産に切り替えたことが影響している模様。中国、ASEAN向けは、引き続き鉄鋼など原材料製品や一般機械が弱い動きを続けているものの、自動車など輸送用機器が増加しており、持ち直しの動きが鮮明となっている。
- 輸出全体の品目別輸出金額をみると、市況の悪化から鉄鋼や非鉄金属など原材料製品が減少しているものの、自動車など輸送用機器の増加が全体の輸出金額を押し上げている。化学製品は、原油価格の下落などで有機化合物などの輸出価格が低下しているものの、物価を調整した実質輸出では増加している。電気機器は底堅く推移しているものの、10月以降、半導体等電子部品にやや弱い動きがみられている。

品目別実質輸出金額（大分類）／品目別名目輸出金額（小分類）



資料：財務省「貿易統計」。三菱総合研究所による季節調整値。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、2015年年初以降の減少局面から脱し、持ち直しの動きが鮮明になっている。
- 輸出の先行きは、中国経済の減速が重石となるものの、米国の景気拡大や欧州の緩やかな回復がプラス材料となり、16年度にかけて回復していくだろう。ただし、中国経済の急失速や原油安による資源国経済の悪化などで世界経済が下振れた場合、世界の貿易停滞・生産活動の抑制につながり、国内の生産、所得・雇用などへ波及することが懸念される。